



令和8（2026）年11月11日

校長だより Vol.11

「同じ星を見て歩いていきましょう！R8③」 ～『応援したくなる人』になる～

私たちが目指す「同じ星を見ながら歩く」学校づくりの中で、生徒に最終的にたどり着いてほしい姿があります。それは、周りの人が「**西高の生徒を応援したい！**」と思ってもらえるようになることです。

人から自然と応援され、背中を押してもらえる人には、どのような共通点があるのでしょうか。

1. 応援したくなる人の条件 ～ 大谷翔平選手と「ゴミ拾い」～

メジャーリーグで世界中を魅了し続ける大谷翔平選手のエピソードは、そのヒントを与えてくれます。高校時代、恩師である佐々木洋監督の指導のもと作成した「目標達成シート（マンダラチャート）」の中で、大谷選手は「ドラフト1位・8球団指名」という中心目標の周りに、技術や体力だけでなく「運」や「人間性」という項目を掲げていました。 （R7 校長だより Vol.6 に掲載）

そして、「運」を引き寄せるための実践として挙げたのが、「ゴミ拾い」や「挨拶」でした。大谷選手は「人がポイ捨てした幸運を拾っている」という意識で、日々の当たり前の行動を愚直に徹底したといいます。圧倒的な実力だけでなく、他者への敬意と誠実さを欠かさないその姿勢があるからこそ、彼は世界中のファンやチームメイトから「心から応援したくなる存在」となったのです。

～ 言い訳をしない ～

2024年の「54本塁打・59盗塁」、そして2025年のワールドシリーズで先発投手として登板しながら3本塁打10打点を叩き出し、チームを2年連続の世界一に導いた姿は、まさに圧巻でした。

しかし、大谷選手にも苦しい時期は訪れます。2026年シーズン、思うような結果が出ず、チームも苦戦する中でメディアから不振の理由を問われた際、大谷選手はこう答えました。

「実力です。たとえ、それが不運な故障が関係していたとしても、それも含めて実力です。」

誰しも、上手くいかない時には「体調が悪かったから」「審判の判定が良くなかったから」「ついていなかったから」と、理由（言い訳）を探したくなるものです。しかし大谷選手は、良い結果も悪い結果もすべてを自分の責任として真摯に受け止め、一切の言い訳をしませんでした。この「覚悟」と「素直さ」こそが、彼の真の強さです。

～ 日常の振る舞いがすべて ～

「応援したくなる人」とは、特別な才能がある人だけではありません。

「誰もができる当たり前のことを、誰も真似できないくらい丁寧に行うこと」

その積み重ねこそが、周囲の心を動かすのです。

- ・ 落ちているゴミをさりげなく拾う
- ・ 誰に対しても気持ちの良い挨拶をする
- ・ 道具や教室を大切に扱う



こうした当たり前のことを大切にできる人は、周囲から信頼され、自然と「あの人を応援したい」

「力になってあげたい」と思われるようになります。



2. 「礼儀正しい挨拶」は、人間性の第一歩

清水西高校で取り組んでいる「あらゆる場面で礼儀正しい挨拶ができる生徒の育成」は、まさにこの「**応援したくなる人**」になるための大切な礎（いしずえ）です。

挨拶は、単なるマナーや儀礼ではありません。「あなたという存在を大切に思っています」という心を伝える、最も開かれたコミュニケーションです。廊下ですれ違うとき、地域の方と出会ったとき、自分から爽やかに、心を込めて挨拶ができる。その一瞬の関わりが、相手の中に温かい信頼を芽生えさせ、「この人を応援したい」と思わせる力になります。

3. 模範を示す先生方こそ、成長を支える「メンター」

この「**応援したくなる人（生徒）**」の育成において、先生方の存在と関わり方は欠かせません。生徒に指導するだけでなく、先生方自らが「あらゆる場面で礼儀正しい挨拶」の模範となり、背中では語りかけてくださっています。

先生方が示すその誠実な姿勢こそが、生徒の心に響く最大のメッセージです。

また、学校生活において先生方は、生徒の皆さんにとっての「**メンター（良き助言者・伴走者）**」です。メンターと**メンティー（導かれる生徒）**の関係は、単に知識や指示を与える関係ではありません。生徒が葛藤し、努力する姿に寄り添い、時には問いかけ、成長を心から信じて支える関係です。

先生方の温かい眼差しや情熱的な関わりを感じるからこそ、生徒の皆さんもまた「期待に応えたい」「この先生や学校のために頑張りたい」と成長していく。

そこには、お互いを尊重し合い、応援し合う最高の信頼関係（連鎖）が生まれています。

4. 誰かのために頑張れる人に

多くの人に応援してもらえるようになると、人は「自分一人のため」以上の大きな力を発揮できるようになります。

「自分を支えてくれる家族や仲間、先生方のために期待に応えたい」という思いは、挫折しそうな時に踏ん張る最高の原動力になります。

学校生活の中で、上手くいくことばかりではないかもしれませんが、しかし、どんな時も言い訳をせず、日々の振る舞いを大切にしましょう。

私たち教師の願いは、生徒一人ひとりが「**応援したくなる人**」となり、やがて「**誰かのために全力を尽くせる人**」へと成長していくことです。

何か大きな偉業を成し遂げることだけが目標ではありません。

今日、出会う人に対して自分から心を込めた挨拶をすること。

日常の小さな場面で、感謝と敬意を言葉と態度で表現すること。

その日々の積み重ねが、自分という人間の魅力を磨き、気づけば多くの人から「頑張れ」「応援しているよ」と声をかけられる存在へと変容（進化）していくのです。

